

DJI セミナー

チェルノブイリからの伝言

ーヒト・放射能・資料ー



「子々孫々へ」

天保四年 丸山角之丞 五十六歳

丸山家文書（松本市文書館所蔵）より

原発事故による一斉避難の結果、避難対象地域にはあらゆるモノがそのまま置き去りにされています。事業所の文書もその例外ではありません。日ごろ見慣れた事務文書の上にも、放射能を含んだチリは降り注ぎます。こうして文書は放射能に汚染されます。しかし、文書は業務遂行には欠かせません。今、避難対象地域内の役所や事業所の文書の放射能汚染の可能性と汚染レベルはどのようなものなのでしょうか。

DJI 松本セミナーでは、第1部の基調講演講師に医師で松本市長の菅谷昭氏を迎え、放射能と健康問題を考えます。第2部では「放射能と資料」という観点で、事務作業などで業務上日常的に紙資料等をあつかう人々が直面する、文書資料の放射能汚染とそこからの被ばくの可能性、さらには資料の除染という課題を取り上げます。チェルノブイリ事故を受けた1990年代初頭のユネスコの動き、チェルノブイリの記録をひもとき、その経験から私たちは何を学び、何を次代へ伝えるべきかを考えます。皆様、どうぞ、ふるってご参加ください。

日時:2011年11月18日(金)午後1時30分～

場所:松本大学(会場は当日掲示)

松本市新村2095-1 松本電鉄上高地線「北新・松本大学前」すぐ。
駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用ください。

入場無料 (先着200名様。直接会場にお越しください。)

満席の場合は入場をお断りすることがあります。

問合せ: メール djiseminar@gmail.com ファックス 0466-31-5061

主催 国際資料研究所 djiseminar@gmail.com 神奈川県藤沢市辻堂東海岸3-8-24 fax 0466-31-5061

共催 科学研究費補助金基盤研究(S)「大規模自然災害時の資料保全論を基礎とした地域歴史資料学の構築」
(研究代表者: 神戸大学大学院人文学研究科 奥村弘) 松本大学

記録管理学会 ARMA国際ショナル東京支部(依頼中)

後援 松本市 BOSAI国際ショナル 日本アーカイブズ学会 ICA/SPA国際文書館評議会/専門家団体部会
企業史料協議会 全国大学史資料協議会 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会

協賛 株式会社国際マイクロ写真工業社

講師紹介

第1部 ヒトと放射能

【基調講演】 チェルノブイリ原発事故による放射能汚染の実態からフクシマは何を学ぶべきか

菅谷 昭（すげのや あきら）氏



昭和18年 11月22日 長野県千曲市稲荷山生
昭和43年 信州大学医学部 卒業 聖路加国際病院（東京）にて外科研修
昭和46年 信州大学医学部第2外科学教室 入局
昭和51年 トロント大学（カナダ）留学（甲状腺疾患の基礎研究） 昭和53年 帰国
昭和57年 信州大学医学部第2外科 講師昇任 平成5年信州大学医学部第2外科助教授昇任、
平成7年12月 信州大学医学部第2外科 退職
平成3年3月から、松本市のNGOグループによるチェルノブイリ原発事故の医療支援活動に参加。汚染地域における小児甲状腺検診をはじめとし現地に7回入り、支援活動を継続。平成8年1月ベラルーシ共和国に渡り、首都ミンスクの国立甲状腺がんセンターにて小児甲状腺がんの外科治療を継続。平成11年6月高度汚染地ゴメリ州に移り、州立がんセンターで支援活動を継続。平成12年12月チェルノブイリ原発から90kmにあるゴメリ州モズリ市に転居。現地事務局を拠点に支援活動を継続。平成13年6月ベラルーシ共和国での5年半に及ぶ長期滞在を終え帰国平成13年12月長野県衛生部医務課医監として採用、平成14年4月長野県衛生部長。
平成16年2月 長野県衛生部長退職 平成16年3月 松本市長（現在二期目）、長野県松本市蟻ヶ崎在住

フランシスコ・スカリナー勲章（ベラルーシ共和国 国家最高勲章）【2000年】 医療功労者賞（読売新聞主催）【2000年】
吉川英治文化賞（吉川英治国民文化振興会主催）【2001年】2001 年度シチズン・オブ・ザ・イヤー（シチズン時計株式会社主催）【2002年】
著書 『チェルノブイリ診療記』（新潮文庫）『チェルノブイリのちの記録』（晶文社）『ぼくとチェルノブイリのこどもたちの5年間』（ポプラ社）
『真っ当な生き方のススメ』（岳陽舎）『子どもたちを放射能から守るために』（亜紀書房）
（松本市ホームページ 市長プロフィール <http://www.city.matsumoto.nagano.jp/aramasi/sityo/puro/index.html> より）

第2部 資料と放射能

【主報告】1992年開催のユネスコ・チェルノブイリ・アーカイブ専門家会議参加報告

上埜 武夫（うえの たけお）氏（ウエノ・テクリサーチ代表、元静岡大学教授）



昭和31年 東京大学工学部卒業 山陽パルプ（現：日本製紙株）に入社
昭和37年～40年 日本原子力研究所高崎研究所へ出向 放射線化学の開発研究に従事
昭和43年～46年 派遣先の京都大学農学部及び自社研究所で「セルロースへの放射線照射の影響」について研究
昭和47年～55年 紙パルプ工場の大気汚染・水質汚濁・悪臭等の公害対策の技術開発に従事
昭和62年～平成9年 静岡大学農学部勤務 研究テーマの一つに「紙・板紙への放射線照射の影響」
平成4年 ユネスコ（パリ）で開催されたチェルノブイリ・アーカイブ専門家会議に参加
平成10年～ ISO14001、EA21等の環境経営システムのコンサルティングや審査を随時受託

【関連報告1】

チェルノブイリで開発された放射能汚染文書の除染マニュアル
小川 千代子（おがわ ちよこ）（国際資料研究所 代表）

昭和46年東京都立大学卒業。事務員、秘書を経て東大百年史編集室に12年勤務、アーカイブに関心をもつ。昭和62年から5年間、国立公文書館勤務、総理府事務官。
平成5年アーカイブ・コンサルタント事務所、国際資料研究所を設立、現在に至る。
平成元年、米国アーカイブ・アカデミー公認アーカイブ、平成13年同ファーマンパー。
平成12～20年、ICA/SPA（国際文書館評議会/専門家団体部会）運営委員。
平成15～21年全史料協副会長、現在は参与。平成15年～記録管理学会副会長。
学習院大学、中央大学、東京学芸大学、東京大学他でアーカイブと記録管理を講じる。
著書 『文書館用語集』『アーカイブ事典』『電子記録のアーカイビング』等。

【関連報告2】

記録を作り、記録を残す一次代へ伝える経験—
佐々木 和子（ささき かずこ）（神戸大学）

神戸大学地域連携研究員、震災・まちのアーカイブ会員。兵庫県姫路市生まれ。
関西大学大学院で歴史学を学び、大阪湾岸地域の空襲記録を研究。
阪神・淡路大震災記念協会の嘱託として震災資料の収集・保存に取り組む。
震災・まちのアーカイブの設立に参画。
論文 奥村弘・佐々木和子「大災害の記録事始め—阪神淡路大震災資料の保存活用をめぐる」岩崎信彦他編『災害と共に生きる文化と教育』昭和堂、平成20年
佐々木和子「アーカイブが生まれる」『アーカイブズ学研究』（日本アーカイブズ学会）4号、「兵庫県の震災資料保存活動と今後の課題」『記録と史料』8号等。

プログラム

- 13：30～13：35 開会挨拶・趣旨説明 小川千代子（国際資料研究所）
13：35～14：35 第1部 ヒトと放射能 基調講演 菅谷 昭（松本市長、医師）
チェルノブイリ原発事故による放射能汚染の実態から
フクシマは何を学ぶべきか
14：35～14：45 休憩
14：45～16：25 第2部 放射能と資料
【主報告】上埜 武夫（ウエノ・テクリサーチ代表、元静岡大学教授）
1992年開催のユネスコ・チェルノブイリ・アーカイブ専門家会議参加報告
【関連報告1】小川 千代子（国際資料研究所）
チェルノブイリで開発された放射能汚染文書の除染マニュアル
【関連報告2】佐々木和子（神戸大学）
記録を作り、記録を残す一次代へ伝える経験—
【質疑応答・意見交換】
終了